

昭和15年9月1日（日）

此日より集配局、市内にある電報の配達を取扱はさる。無集配局に於いては、日曜祭日に於ける郵便及び電報電話の取扱いを、為さざることとなりたり。鶴市神社祭典。朝来雨歇み、九時過ぎ出発。ミワさん随ふ。片道80、往復128、洞門まで。市内各局長、北部局長会長、副会長、各郡部会長出席。耶馬溪村役場を会場に充当。婦人は大貞駅前局長の娘さん、同局長は熊本に剣道選手として出席。恰度講評会に間に合ふて出席さる。十時半、山内掛長、勝元監察員出席。掛長より挨拶、一般的注意より概括的講評に入り、次いで勝元書記より各局別に点数を通告。指示事項に付き印刷物を披（ひら）いて講評あり。区内20局全部一等内優良局10局。最高、山移95、他は92、5、当局又其の中にあり。即ち耶馬溪、下郷、柿坂、今津、中津栄町、同駅前、大貞駅前。而して大貞及び一つ松の二局90。豊後町、溝部、平田、羅漢寺、真坂、山口、鶴居87、5。深秣85、三郷、上津82、5。之を事務別に分類すれば、電話91、6、保90、為89、2、庶89、電話88、5、郵86、5。前回十二年十二月には特別監査と比較するに局数、無集98十七、今回無集128二十。前回平均90、今回89。前一等16、二等1、今回一等20、而して半数は優良局。前回に向上せしは五局。中津駅前、一つ松、深秣、大貞、山口。局舎は前回一号12、二号5、今回一号17、二号3。山国屋にて昼飯。タクシー三台、余之に乗る。徒歩組多数あり。一時四十五分から二時十五分に皆集合す。酒を廃する趣旨なりしが、遂に出現せしも、食事半途にして飲むもの少なく切り上げ早し。会費二円づつ出金して、ミワ氏と羅漢

寺を観る。往路に禅海堂に至り、羊腸の経路を辿り堂宇に達す。ミワ氏宝物を観20、五時二十分バスにて羅漢寺駅に至り、洞門まで五銭にて五時三十五分発、六時二十分頃帰宅。恰度降雨せしも、途中は曇天にて始終せしは幸なりし。七時鶴市神社山鉦18台、次いで神輿、次いで神官二名馬上豊かに壮観を呈せり。九時半寢床。

昭和15年9月2日（月）

曇りなるも、稍晴れ勝ちの天候。昨森田さん西牟田さんかかり行く。夜八時五十分の列にて帰宅さる。大南瓜、貰ふて来らる。報告物発送。昨、全休の後を受けて頗る多忙。千円国債到着。保管手続きして遣る。八時半まで仕事す。久子より葉書。毎土曜毎に肴を求め腐らせ居る云々。太田岩吉氏より岩男氏戦傷、小倉にて療養中脚氣にて死去の報あり。二円見舞いす。昨、相談所売物となり、元金二百六円、栄町長より渡さる。八時過ぎ退局、水浴す。

昭和15年9月3日（火）

朝の間晴れ、次第に曇り。予報は驟雨の模様ありとあり、遂に不降。午前、中津局行き。葉書受取り来る。平素は午後行き、幹部食事中を常とす。午前中とて木下主事猶有り、一寸咄しかけて販る。局舎図面引き。六時森田氏西牟田氏宅に至る。本日送付を受けたる品物に行違ひありしやなり。昨夜にて鶴市神社の祭典終了。夜に入り太鼓の音、喧しかりし。此日可なり暑し。全部風呂行き、七時三十分販る。刑事来局。進花子過払い事故調査。

昭和15年9月4日（水）

晴れ、次第に曇り。午後雷鳴降雨。局舎図昨下写しせし俣、本日作成し能はざりし。伊勢武子、第二次電話事務員採用口頭試問、及び体格検査執行通知来る。此日、西牟田員転採用方依頼と同時に、伊勢氏採用済みの旨、中津局に通知す。森田氏八時汽車にて到着。西牟田氏より南瓜を頂きし返礼に、50銭のパンを求め托したるに対し、森田氏に謝礼ありし旨申し出らる。母堂物干し棹を取付くる為考案し、頻りに斧を揮ってクイ木を作らる。余、後を襲けて作成す。夜近所に五才の小児を喪くした家あり。七時頃より二時間程、通夜に行く。菓子を買ふて来らる。全体なら余の行くべきを、ミワさんに行って買ふ。森田氏等活動に行き、ミワさんより少し早く眠る。九時寝を展べ寐る。

昭和15年9月5日（木）

蒸し暑きこと甚だし。午前十一時半頃より、衡器検査に局の衡器を風呂敷きにて被い、麻糸を通して棒を入れ、伊勢さんと提げて行く。ミワさん郵便衡器を携ひ行かる。待つことなくして、十分間計りにて検査終了。一旦眠りて更に切手を受取りに行く。夜はミワさん出棺送りに行かる。勝元氏より郵便線路図を送付越さる。暫く振りにて梅林氏より葉書来る。夜八時よりミワさんと外出、箆筒を漁る。三尺物69，50は余り感心せず。鷹匠町蛭子橋角井口、某方に至る。製造元とて三尺もの、五尺もの等あり。三尺物70円は前面樫なり。五尺物は130円と云ふ。四尺物を100円とし作成方依頼。内金50円支払う。眠れば九時を過ぐ。茶を頂き、十時寝床。

昭和15年9月6日（金）

刑事氏来局。進花子新博多町にて指圧療法を営む。現住判明。昨警察に召喚、取調べたるに全く知らざる如く、7、50銭受取りの際は、其の余りは中津局より受取り呉れとのこと故、中津局にて受取りたるもの。通帳は郵便局より引揚げに來たり持行かる儘、交付せずと云ふ。名義人は眼不自由の為め、東京にて手圧療法を習ひ、名古屋にて開業せしも、當地に來たりたるものと云ふ。午後二時、更に刑事氏来局。二十円持参に付き、受領証を交付せり。次いで、余自ら進花子を訪ふて承諾書を徴し、払出金額を記入し、刑事氏より受領の二十円を預金し、本事故を解決したり。次いで大師町石狩ヨシエを訪ね、是れ亦解決し、三時過ぎ帰局。四時西牟田氏臨局。庶務主事に電話面接せんと云ふにぞ、同氏を促し中津局に出頭せしむ。明日体格検査の上、決定の由。夕食二階にて、森田氏等兩人の馳走にて済まし、ミワさんより五十銭饅頭にて茶を振舞ふ。六時帰らる。ミワさん手紙書きにて、十時まで新聞見る。

昭和15年9月7日（土）

風涼し。道（さすが）に秋らしき感触す。十時頃、西牟田氏臨局。身体検査、局の隣家の高橋医に依りてなさる。耳鼻咽喉科専門とて、腹の方は良く診て呉れざりしらし。暫く二階にて待ち、四時汽車にて飯宅。昼食は二階にて済まさる。午前中窓口事務にて忙殺され、午後より局舎図に移る。此日汗出でず。夜は甚十郎氏より送金ありたるに対し、ミワさん返信書き。十時寢床。

昭和15年9月8日（日）

昨夜蚤（のみ）頗る多く、安眠を妨ぐ。此日、晝を醬油屋倉庫側に持出し乾燥せしむ。昨日よりミワさん齒医師かかり行き、今日も亦、二時行かる。局舎図調製発送す。此の日、余の誕生日、ミワさん色々馳走を整わせらる。赤飯を炊かる。誕生日を祝ひ貰ふは初めてなり。夕方より活動に森田氏等を連行。寶館20錢づつ奢らる。九時四十分飯り、茶を喫し、十時寢床。猶、晝は夕方活動行き前、野口氏によりて取入れられ、新聞紙を下敷きとしたるが、此夜、蚤居らず。

昭和15年9月9日（月）

曇り、時々晴れ。朝昼二回中津局行き。西牟田氏の転用方、公文にて通知あり。本日付き出向を命じ、其の旨、西牟田氏に電話す。夜、萩の餅各七個づつ三人に振舞ふ。余九個を頂く。集金郵便84円の受領を受付けたる為、駅前製氷会社に行く。曩に本町を訪ね、更に駅前に戻る。此の朝、髯剃る。八時退局。朝夕涼しさ加わり、蚊、余程減退す。

昭和15年9月10日（火）

此朝七時半、西牟田氏来局。即ち、出局して出向辞令を渡す。余健康に注意を要する旨説けば、大いに畏れ自信なきものの如し。九時頃中津局に至る。五時四十分頃来、庶務に勤務することとなりたる由。伊勢員病氣欠勤。夕方より小包番号札を調製す。代引き小包搜索に便せしとす。此日、朝より降雨模様。西牟田氏の給料は、日給一元を謂はる。六時の汽車にて飯らる。番号札34枚調製。森田さん援助、夫々現物に結付け手配さる。八時半

退局。

昭和15年9月11日（水）

夜半より暴風雨。庭の板戸を倒壊、隣家の看板を倒す。硝子戸一時明けたるも、再び閉鎖せり。午後より葉書取りに中津局に行く。各町何れも門戸を閉じて休業せり。勿論風雨の故に非ず。庶務に至れば西牟田さん挨拶に来る。顔色青白し。階下まで余を送りて来る。伊勢さん今日も欠勤。満州国便覧訂正の為、暇どること夥し。午後も天気不良の儘、日暮る。雨歇む。

昭和15年9月12日（木）

風強し。雨は歇みたる故、硝子障子開放せり。倒壊の板戸を直す。伊勢さん今日出局、腹痛の由。特に休暇を与ふ。報国債請求せざりし為、送り来たらず。数名申込みあり。午前中窓口で鞅掌（おうしょう）す。冷氣、朝より上衣を着用。ミワさん等風呂行き。

昭和15年9月13日（金）

快晴。朝来、頗る冷ゆ。全く秋かかりし、綿入れ着用。中津局に資金請求に、二度行く。之にて温みを取戻す。公報に依り訂正物、九時よりかかりて済ます。水浴。十時寢床。

昭和15年9月14日（土）

一類検査の際、中津局にて電信為替証書に主務者印押捺洩れ発見。後刻切手請求の際、一類持行き押して貰ふ積もりにして出発の際忘却せり。野口氏追いか来る。恰度、寺町角にて遇ふ。引き返して再び局に至り、訂正の

上、発送方を依頼して帰局。野口氏も跟いて来る。此の朝、引受人財産調書問題にて高羽駒次に徴収方委嘱、二円の為替券を旅費の一部にと遣る。午後一時、蛤しるこ一箱、焼き海苔一缶を土産に、二円の汽車賃を貰ふて、ミワさんに送られて出発。小倉にて立ち往生、客多し。五時到着。夕食の準備に忙し。素麺頂く。黒葡萄も頂く。南瓜（かぼちゃ）美味なりし。

昭和15年9月15日（日）

後藤寺の初盆にて、澄子二円の小為替券を設備したる儘、余も気が利いて送ったものと心得、発送を見合わせたる由。其の証書と外に金一円を出して、曩に年金受取り洩れの分、別の判にて払渡し呉れたる由にて、其の金額分を呉る。夜久子より、寿座活動招待券を余に持参。オリンピック映画が最も面白いと云ふ。月涼し、満月らし。日中は朝の間、晴れ。曇天、偶に陽の射すこともあり。

昭和15年9月16日（月）

暦に依れば、潮の干満は全国的のものを登載し居りて、土地に依りて大分相違あり。同じ九州に於いても、関門地方と大分地方とにて一時間の相違あり。此朝9時半頃が干潮の最高調と指示せし為、正岡さんと約束、貝拾いに出掛けるに決し、今朝5時前に澄子起床。7時過ぎ出発。余留守居。10時頃綿打ち直し。曩に打合せ済みらしく、請取りに小僧連れて来る。5貫300匁あり。三通りに分類せねばならぬと云ふ。種々の綿が混合し居る如し。打ち直し賃、一貫目90銭らし。3時頃、便所汲み来る。60銭遣る手筈なりしも、公定価でもないからかかもしれず、汲み上げ立去りぬ。その辺に居るなら遣らそうと墓の前

まで行きしも、何れに行きしか分からず。遂お金を渡さず了ふ。東京、須藤義樹氏に手紙書く。5時を過ぐるも販り来ず。心配になりたり。朔風冷氣を帯び、綿入れを着用する程の冷えかたに一層心配の度を増し、二階に上ったり下りたり。6時を過ぎ漸く来る。近所に少々分かち、藤岡にも久子持ち行くことにせり。此の夜は火を起こさず、湯も沸かさず、朝の御飯にて頂きぬ。風呂に行きぬらし。菓子麵包頂く。

昭和15年9月17日（火）

晴れ。髭剃り後、一時より山崎氏かかり行く。仏前に一円供ふ。読経。販るさ、予て用意のお茶と一周忌の贈物を頂く。市場にて無花果20、落花生45、齒磨き大17、求め帰る。落花生古くして不味なり。年金9円受取る。道子より昨日手紙来たり。本日澄子返信認む。余も同封して貰ふべく書く。妊娠二ヶ月らし。身体の変調も蓋し其の為らし。風可なり強し。年金二月分受取らぬ俣、五月分受取りし由にて、折角受取方申越しあり。印がなくとも別の印でもよしとて、強いて受取らせし由。其の分を俺に返済するに、二円の小為替券をも加ふ。これはお盆に大原??初盆会の見舞金とて二円取組み置けども、余が遣れば重複となる恐れありとなし、発送見合わせしが如し。其の小為替券を年金分に充当す。

昭和15年9月18日（水）

曇天、市場全休。朔風強く、可なり冷ゆ。葉書を求めんとしたるも、これ亦、店閉鎖されある由にて止めたり。夜、貝を刻み飯に焚き込み、隣家と石井氏に持行く。然るに惜しい哉、砂交じりありて噛むに難渋せり。一碗にて中

止せり。隣家より無花果一ヶ貰ふ。余り寒いので早く寝る。月も暗雲に隠れて見えず。

昭和15年9月19日（木）

晴れ、久方振りの秋晴れ。胸を露出して日光浴をなす。向上8月号読了。夕方石井氏より無花果、余の為にとて頂く。夕食の際、餐く。栗原、広瀬両氏に葉書にて発送す。黒狗を殺せしことより、斎藤氏に澄子何か気の毒なことしたる旨、謂ひしやにて、悪しざまに澄子の態度を罵りしことに腹立ち、他に移転を策し居りし如し。此日余に計る。余之を難ず、懇諭す。昨夜寒いので蚊帖を吊らず。夜半蚊の襲撃に安眠し得ざりし如し。余は此の無謀を為さず。蚊帖を撤廃するは尚早なり。昨夜より毛布を出して貰ふ。此の夜月清し、陰暦17日。

昭和15年9月20日（金）

晴れ、後曇り。此日彼岸の入り。神柴及び仏壇花卉（かき）類、久子朝求め呉る。多分売りに来たりしならん。これで神様に対して申し訳が立ったような気持がする。光誌15日発行分来る。之を読了。森田玉五郎氏宛送付す。梅林富造氏より曩に葉書通信に対し、返信発送す。澄子等風呂に行く。久子より電車券30枚譲って貰ふ。昨夜と相違、天気悪く、月光全く見るを得ず。予報は明日処に依り雨とあり。

昭和15年9月21日（土）

久子に年金受け取らせ、電車切符三十区分45、差引き貰ふ。朝晴れ、次第に曇り。申又洗濯、二時頃乾く。石井さんの子供遊びに来る。南京豆を与ふ。午後二時より

剃刀を研ぐ、三時までかかる。国勢調査予行演習、用紙に記入して遣る。天候は雨は愚か、次第に快晴となる。四時、多少の雲を残すも秋晴れの好天気。早く掃除を済ます。向上9月号読み上げたり。第一生命より印鑑表を遣はせしに付き、押捺の上、直に発送せり。道子のセルの袴、拾円にて澄子余に譲り呉る。別に洋服を新調する由。柳原先生より、午後七時まことの郷案内来る。午後六時三十分到着予定。理髪の間に合わず。食事を済ますと直に出発。電車通りまで徒歩、夫れより電車。優に間に合ふ。定時来著。直に両氏を電車に乗せ七時帰着。夕餉は天麩羅を供す。油は胡麻油を捜し求め来る。一合参拾銭、将に酒の値段より高し。南瓜、鯖など揚げる。七時夕食を餐して、風呂に行かしめたり。蚊帳は中津にては吊らぬと云ふも、昨夜まで吊り居りしものを、万一夜半、蚊に刺されては気の毒と、蚊帳の一方を吊り何時でも吊り得る待機とす。階下も初めの間、蚊遣り香を焚きたるも、僅かの時刻に過ぎざりし。斯くて下にても、蚊帳は吊らざりし。

昭和15年9月22日（日）

午前九時まで、柳橋本にて待ち合わせす云ふ故、同時刻までに待ち居るも見えず。新柳町かも知れずと思ひ、新柳町にも遣はす。何れも見えず。公衆電話が新柳町旭座側にあるより、電話を利用して寄宿舍にかけて見さす。静子を繁子（しげこ）と間違え帰省せる旨、返事あり。静子さんなら居ると云ふ。時間は十時に垂（なんな）んとす。間誤々々して居る筈なきに、不思議に思いつつも至急来る様、注意方依頼。其の儘、其所に待合わす。間もなく静子さん見え、簗島橋にて待ち合わすつもりにて、

三十分も待居たりと。愈々不来と信じ、元来た通りに来て見れば、爰に初めて余等を見出し、喜び合ひり。斯くて千歳町下車、西戸崎志賀島行きの表示を頼みに、捜し出したる宜しけれども、猶一時間待合いあり。時間を空費せしむる口惜しき心地して、遂に新博多駅より雁の巣に行くこと決定。一人30ずつ120支払ひ出発。然るに此日、箱崎神社祭典。砂瀬より砂を小籠に納め持帰るを例とし、此れ等の乗客雑踏を極む。電車は手前で止まり、乗換の為め更に混雑し、漸く発車すれば和白にて亦、大いに待たさる。此の際、飯塚、市外網分有松局長、局員拾名と慰安会に来たり。名島を見て、雁の巣国際飛行場の見学をなさしむと。女子は袴を穿きつつ奈多着。余等先行、松原の中にて昼餉に愛国パン（往くときに木村屋より愛国パン六ヶ、ピーナツ入り四ヶ、計74銭）を、各三名宛て給す。中津より持参したるもありて、余一ヶ頂きしも猶二ヶを残す。之を袋に詰め、二時到着の台湾大陸方面よりくる隻発優秀機を見て、二時半帰途に就く。帰路は箱崎にて停車せず直行せり。帰りは皆、腰かけ得たるは嬉しかりし。斯くて岩田屋にて夕飯四時、洋定食を食べ、四円支払ふ。残りしパンを持帰る処、逋（さすが）に女性のつつましき処。森田さん姉妹は師範学校に外泊許可を請ふべく行き、余と野口氏、ゴム板軍事郵便を捜す。松屋まで行きたるもなし。岩田屋の食堂を出づる際、偶然、久子と藤岡氏に会す。挨拶して分かる。六時に旭館活動前にて会する約束故、五時五十分到着。階下札、参枚求め20、信子主題現代劇を見さす。余は帰宅。澄子に静子氏、余の家に泊まると云へば、図々敷きを奮慨す。余之を諭して平静を取戻す。久子まで色々なことを

云ふ。十時に漸く皆帰り来る。途を間違ひたらし。土曜より蚊帳吊らず。

昭和15年9月23日（月）

朝の間快晴、頗る暑し。三名を連れて玉屋へ出て、オリンピックの活動を見せんとす。皆買い物をする必要ありとて、活動行きを肯ぜず。仍って再び玉屋に引返し、ゴム印を捜せど他の館同様なし。皆の企望に任せ、余はスクラップブック80、及びハミガキ及び楊子55を、皆と分かれてから求め、千代町までピーナツ40、求め帰宅。將に正午、此頃より曇り初む。天気下り坂との予報に相応はし。下駄の緒二足50を、川端にて求む。道子妊娠、悪阻（つわり）重しと云ふ。当地にて静療したき由、申し来る。振替貯金課封筒返却方申し来れる為、六枚程発送す。午後四時近く掃除す。將に終わらんとするとき、久子、良助さんよと云ふ。大急ぎで終了。裸で居たから着物を持来させ、着用して挨拶す。十二日付き通信技手拝命。昨、中津一泊。再び余を訪ふべく当地に逆行せりと。四時三十分博多駅に行く。バス及び電車にて森田さん迎えに走り出づ。間もなく開札、プラットホームに入らず柵内に居る。原野虎次郎氏、余を見付けて今回新京に行く旨、語る。祝詞を呈す。発車を祝福して送り、五時三十分帰り夕食を済ます。良助をオリンピックに案内、久子に頼む。澄子に洋劇の為に80銭呉る。ハイキング洋服一式取出し来る、防空演習に使用すべく。午後九時頃より降雨。中津行き、両氏雨に逢はぬうち無事着津を祈りつつ、寝に就く。蚊帖吊る。

昭和15年9月24日（火）

四時前起床。雨降り歇まず。体操を缺く。新聞六時頃配達に付き、食堂にて読む。食後髭剃り。八時二十分良助工務所出張所に挨拶、九時二十分出発の由。余九時十二分発。雨降る為、久子にバスまで来て貰ひ、和傘を持たせ販らす。此頃小降りとなる。定時発車、定時着。ミワさん迎えに来て居らる。午後三時二十分、村上某の母、大喝して来る。意味不明にて局員茫然たり。本件は没分曉?の老婆が娘の言を妄信せる結果ならんも、局の威信を傷つけたる点に於いて、看過し得ざる点あり。警察に訴願せり。六時より防空演習に、ミワさん婦人達と出かけらる。紋平袴、持合わせのものあり、着用さる。雨は余の到着と共に歇みかけたり。伊勢さん病氣欠勤。蟹の中毒らし。八時過ぎまで仕事す。九時過ぎミワさん販る。豊田小学校にて署長さんの咄がありたる由。十時寢床。蚊帳数日来吊らずと云ふ。

昭和15年9月25日（水）

朝の間曇り、次第に晴れ。切手請求に対し、午後0時20分受取りに行く。午前中、巖来たり道子妊娠を咄す。悪阻甚だしき旨、話す。防空演習用砂入れとして、曩に藁灰持来たりし木箱持行く。此日も防空演習、午後七時三十分よりミワさん出て行く。此夕飯にとろろ汁頂く。朝の間、貯金事故調査の為、中殿に至る。母堂、野口氏、森田氏を連れ活動行き。料金出してやる。演習十時を過ぎ漸く終了す。活動は十時頃済みたるも、一行販宅後まで演習は継続しあり。夕刊を見て、十時半寢床。

昭和15年9月26日（木）

曇り。木下氏を中殿に訪ねたるも、戸閉鎖しあり。守谷某を天神町に訪ぬ、不明。大毎販売部に尋ねたるに、区長に聞けば分かると云ふ。更に区分を訪ぬるに、自宅に其の人ありしも、今は他に転住し居るも保管証券は自分が所持せりと云ふ。貯金通帳は名義人所持の筈故、早速通知すべしとのことに委頼して販局。大木氏貯金預け入れの為め来局。局員が不正あるかの如き口吻にて、甚だしく心平らかならず。当時三名に対し50銭二冊、一円一冊を総額の金額に変わりなきも入りくりし居りたること判明。承諾書を徴すべく交付置けり。四時より演習、四時三十分ミワさん参加す。五時過ぎ石狩ヨシエ方を訪ふ。降雨次第に劇し。五時演習終了。給料交付。前田某氏書道の達人なり。揮毫せし掛け軸等を示して注文を依頼す。半切り軸物五円と云ふ。一本購ふ。給料は伊勢氏欠勤分、森田氏等に手当として給与す。甘諸頂く。九時半寢床。ミワさん道子に手紙書く。

昭和15年9月27日（金）

朝まで降雨、後歇み午後より曇り。雑事に追われ午後九時近くまでかかる。風呂行き。序でに、筆筒の調製未だし、督促に行つて貰ふ。既に出来て居る由。母堂と共に安神して飯らる。

昭和15年9月28日（土）

夜に及び降雨。朝に至るも猶歇まず。昨日より市外の道路を掃除せしことを心懸く。此日細雨あり、取り歇む。ミワさん切手請求。局報研究問題中、不判明に対する保険関係尋ねしむ。窓口頗る混雑。電報も珍しく多数あり。

切手売捌き所よりの請求二百余円、郵便為替貯金等、四角八面に補助す。九時、防空予行演習に男女共出勤方、命あり。戦闘帽70銭求めしむ。ハイキング服、持参のものを着用することとせり。此夜七時、近衛首相の日独伊同盟問題にて意見の発表を聴く。巖の家主来たり。問題惹起に対する仲裁の労を取らしむる目的にて来宅。午後九時、防空訓練男女共出勤。ハイキングドレスにて、但し帽子、戦闘型70にて求む。爆弾投下地上防禦と屋上との区別、及び動作に付き演習。十一時を過ぐ。十二時近く寢床。

昭和15年9月29日（日）

曇り。髻剃り。十時、耶馬溪倶楽部に於ける郡内局長会議に参加。全員出席。ラジオ募集手当一件32銭づつ307、計98, 24交付。今度の監察にて賞金下賜（かし）四局、山移、耶馬溪、柿坂、栄町。相談所剰余金三百余円内、売却世話人及び栄町に各30、委員五名に50、前世話人永江氏遺族に5円。残金は栄町局長保管のこととなる。此日の食堂1, 20は此の相談所剰余金より支出。一時過ぎ帰局。満州便覧訂正書、配布差換えを了す。秋永鶴居局長臨局。逋信記念日記念品鏡、残部配布。一ヶ80にて希望者に売却せらる。当局保管の分を、全部持行かる。此の時貯金局灰皿一ヶを頂く。曩にも頂きたる如し。此の夜九時三十分、男女共出勤、前日の如し。十時半終了後、煎餅の馳走あり。此日西牟田氏妹君と来局。用達後、再び来局。余、味噌煎餅馳走す。肉屋より家賃20円受取る。隣家の伯母さんに禮心に一円遣る。

昭和15年9月30日（月）

切手請求、午後より受取りに出かく。伊勢氏の病気はチフスらし。午後六時半、母堂ミワさん風呂行き。珍しく快晴。日中は暑き位。窓口補助、今日は訓練なし。明朝四時半より神詣である由。但し女子のみ参加。新態勢は朝起きからとあり。寝る前身体を拭ひたり。寒くして水浴する元気なかりし。又新聞を見つつ睡魔に襲はる。一時間、仮眠を貪る。